

令和6年度 学校評価報告書（小中学校用）

学校名	袖ヶ浦市立根形小学校	記載責任者	校長 小藤田 信明
-----	------------	-------	-----------

【自己評価】（A）十分達成できた（B）ほぼ達成できた（C）あまり達成できていない（D）達成できていない
【学校関係者評価】（A）妥当である（B）ほぼ妥当である（C）妥当であるとは思わない

【1】学習指導（「かしこい子」を育てるために）

評価項目		自己評定	自己評定説明欄	関係者評価	関係者評価説明欄
1	児童の学習に対する意欲化を図る授業展開に努めた	A	学習素材や学習過程を工夫してきた。自分の意見を持つ、発表し全体で共有する場面を取り入れることで児童の存在感の持てるような授業を、全職員が目指して取り組んだ。	A	・学校評価アンケートより「学校に行くのが楽しい」「先生の授業がわかりやすい」と回答している児童が90%以上いるのが大変よい。 ・授業参観時、各クラスが非常に落ち着いて楽しそうに過ごしているように感じた。 ・児童が発表する際、聞く相手がわかりやすいように、話す速度や声の大きさなど相手のことを考えた話し方ができるとよい。声を張って発声することは、自己表現やコミュニケーションをとる上で大切である。 ・大型モニターでの提示やタブレットについては、子ども達がかなり使いこなしており、学習が楽しく効率的に進められている。どの場面で使用することが効率的なのか考えていく必要はある。 ・学力向上週間や市のテストなどをチャンスと捉え、基礎基本の事項の定着を図る取り組みは今後も、継続すべきだ。 ・ホームページで発信することで学校での学びや体験が保護者と共有できているのがよい。 ○自己評定は妥当だと考える。
2	「わかった・できた」という達成感をもたせるよう努めた	A	本時の学習課題を明確にしたこと、自分の言葉で学習のまとめを書くことで学ぶべき事の理解の定着をはかった。児童の91%が「先生の授業がわかりやすい。」と認識している。高学年では、交換授業を実施することで教材研究を充実させより良い授業の実現を目指した。		
3	基礎的・基本的な事項の定着を図った	A	学力向上週間を設け、漢字や計算の小テストを行い、基礎学力の定着を目指し取り組んだ。市の算数テスト（SU～GA）では、90点以上到達率を目標に実施し、ほぼ全学年が達成している。必要に応じて個別に指導も行ってきた。		
4	本時の目標を明確にした授業を行った	A	ICTを活用するなど、学習素材をわかりやすく提示することで、本時の課題を明確にすることもできた。授業の導入を大切にし、児童からの疑問を引き出し、学習問題を作る授業展開を心掛けた。		
5	問題解決的学習の充実を図った	B	既習事項を活かした問題解決的な学習問題づくりや、まとめを意識して授業を組み立てた。解決の見通しを持たせる等、指導過程を工夫してわかりやすい授業づくりに努めた。学習素材の提示の仕方を工夫することで、本時の課題を明確にできるようになってきている。		
6	話し合い活動・表現活動の充実させた	B	少人数で話すなど、抵抗感の少ない話し合いの形を取り入れてきた。一人一台のタブレットを活用し、自分の考えを伝え合う活動や全体の前で発表する場を意図的に設定した。高学年は集会活動や委員会活動などを通して、全校の前で表現する力がついてきている。		

【2】生徒指導（「心豊かな子」を育てるために）

評価項目		自己評定	自己評定説明欄	関係者評価	関係者評価説明欄
1	いじめは絶対に許さないという学校づくりに努めた	A	定期的にアンケートや教育相談を実施して児童理解に努めた。アンケートの内容によっては、児童と面談したり、保護者に報告したりして解決を図ってきた。いじめゼロ集会を開催し、全校でいじめは絶対に許さない思いを確認した。	A	・小中連携した挨拶運動の実施など、隣接した立地を生かした活動がよい。登校時に挨拶できる児童も増えている。 ・いじめゼロ集会は、子ども達が自分はもちろんのこと、友だちや家族などが大切な存在であることを学ぶ機会になる。 ・道徳の授業で自分や相手の気持ちを考えていくことを普段の生活にも生かすことができる。授業参観での道徳の授業展開も心の指導を大切にしていることが伝わってきた。 ・「いじめは絶対に許さない」という教師の強い姿勢やメッセージを児童は敏感に感じる。今後もアンケートや教育相談、集会、日常的な観察などを通した児童の実態把握、児童理解に努めるとともに、継続した取り組みをしてほしい。 ・学校外の問題行動なども、関係機関との連携が図れている。 ○自己評定は妥当だと考える。
2	学級経営を基盤にして児童理解と個性の伸長を図った	A	毎月実施する心の健康チェックや年2回実施する担任との教育相談、学校生活アンケートから児童の実態把握をした。学級記録ノートでも、生徒指導対応などを職員で情報共有をしてきた。市特別支援教員など様々な職員を活用し、支援の必要な子どもの成長もサポートしてきた。		
3	学校生活をよりよくするための規範意識を育てた	A	根形小のあい言葉「あいさつ・返事・きれいな学校」をもとに規範意識の向上に取り組んだ。今年度より小中連携した朝の挨拶運動を実施した。また全校で、それぞれの清掃場所の清掃方法を各クラスで再確認したことで、自分たちで使用している施設を自分できれいにしようとする意識が高まってきている。		
4	一人ひとりの存在感を意図した特別活動の充実に努めた	B	学級を基盤とした安定した人間関係づくりに努めた。係や当番活動、実行委員会を組織し、多くの児童が活躍できる場を設けた。小中学校合同の挨拶運動、集会活動の運営等、高学年が委員会を通し、学校をリードする取り組みができるようになってきている。		
5	全教育活動を通し道徳的心情の育成に努めた	A	道徳的心情をもとに考え、議論する道徳を目標に掲げてきた。「相手がどのような思いなのか」を考えられるよう、日々育成に努めた。「友だちと仲良くできる」と95%の児童が肯定的にとらえている。		
6	思いやりの心を育むよう努めた	A	いじめゼロ集会では、児童がお互いを尊重し、認め合う態度を育成した。ペア活動では、ペアの友達を中心に異学年交流を深め、校外学習前にはお守りを渡す活動をしてきた。		

【3】保健・安全管理（「たくましい子」を育てるために）

評価項目		自己評定	自己評定説明欄	関係者評価	関係者評価説明欄
1	命を大切にする安全教育を実践した	A	様々な災害を想定した訓練を計画的に実施した。今年度は中学校と連携し、引き渡し訓練を行うことができた。予告なしの避難訓練も実施するなど、より実践的な訓練となった。「避難の仕方がわかる」では、97%の児童が肯定的な回答をしている。	A	・小中連携の引き渡し訓練では、回を重ねるごとによりスムーズになっていくと思う。様々な災害を想定した訓練は大切である。 ・登下校の歩き方は、折に触れ、指導していく必要がある。楽しく話していると広がった歩行になりがちである。
2	正課時体育の充実を図り、運動習慣を身につけさせた	A	体力テストの結果の不足している体力要素をもとに、体育では、「全力走」や「鉄棒」など、学習時間の中でバランスよく運動することを共通理解し取り組んだ。休み時間に体力テストの「合格チャレンジ週間」を設けたり、体育委員会による「縄跳び強化練習」に取り組んだりして体力向上を目指してきた。		

3	食に関する指導の充実を図った	A	全学年で生活習慣病を予防することにつながる食に関する指導を実施した。その際、専門的な知識をもつ、本校に籍のある学校給食センターの栄養教諭と学級担任が連携して授業を進めた。	A	・授業参観では高学年が救命救急を学んでいた。体験は、より命を大切にすることとなる。 ・食指導については、給食センターの栄養教諭の話を聞くことを通して、気づきや関心が芽生えるきっかけに繋がる。 ・向寒マラソンや縄跳びなど、学校行事を通して運動量の確保もでき、個々の体力向上が図れたと考える。 ○自己評定は妥当だと考える。
4	体力や運動能力の向上を図った	A	運動会では体力の向上の一つとして全学年が表現運動に取り組み、保護者や地域の方に発表できた。今年度より向寒マラソンの走行距離を1kmにし、チャレンジしやすく安全に体力の向上が図れるように変更した。マラソン記録会の実施方法や練習の取り組みについて課題が見えてきたので検討していく。		

【４】その他

評 価 項 目		自己評定	自己評定説明欄	関係者評価	関係者評価説明欄
1	各種たより（学校、学年、保健だよりなど）やホームページで学校教育活動を発信し、情報提供を行った	A	・各便りを定期的に発行してきた。ペーパーレス化が定着し、ホームページに掲載してきた。新システムのシグフィーにて便りを添付し発信することができ、閲覧しやすくなった。 ・学校だよりについては、印刷した便りを地域に回覧板にて配付していただき、学校教育活動を紹介した。 ・緊急な連絡（自然災害、学級閉鎖など）は、学校連絡メールを活用した。	A	・校長の早朝の登校指導は、安全を意識するよい機会となっている。館山道の下の「手押し信号機」を設置し安全面が守られている。トンネル内に「時計」がつくと子ども達が学校までの時間を把握することができてよいと思う。 ・登下校時に車をとめ、渡るよう促すと子ども達が一礼を返してくる。さわやかな対応である。 ・公民館や市郷土博物館、社会福祉協議会と連携し、様々な学習や活動ができた。参加態度も立派だったと聞いている。 ・ミュージックフェスティバルに中学校の吹奏楽部を招待したのは、とてもよかったと思う。子ども達が真剣に聴いていた。音楽で繋がったと思う。 ・不祥事はあってはならないことだが、いつ、どこで学校で起きても不思議でない社会環境にある。定期的、継続的な働きかけが不可欠。 ○自己評定は妥当だと考える。
2	地域や関係機関と積極的に連携した	A	・根形の立地を生かし、公民館や市郷土博物館、給食センター、社会福祉協議会と連携し、総合的な学習や社会科の学習などに生かすことができた。 ・生徒指導に関わる内容について、子育て支援課や教育センター、スクールロイヤーなどの行政機関と積極的に連携を図った。 ・学校支援ボランティア（掲示、プール掃除、音楽、花壇、図書、家庭科）に様々な教育環境や学習指導のサポートを頂き、大きな教育的効果があった。		
3	職員のモラル向上を図ったり、職員の働き方改革の意識を高めたりした。	B	・職員会議や職員打ち合わせの中でミニ研修を行い、不祥事の具体的な内容を確認してきた。自己分析シートで職員一人ひとりの行動の振り返りをして、不祥事防止に努めた。 ・教育課程の見直しをするなどし、子どもと向き合う時間や放課後に教材研究、事務仕事ができる時間を確保するよう計画をしてきた。		

【５】次年度の重点課題と具体的対応策について

次年度の重点課題		具体的な対応策等	学校関係者評価員より
1	「思考力、判断力、表現力」育成し、学力向上を目指す。	・校内研修を活用し、各教科の指導力向上を図る。 ・問題解決的な学習、探求的な学習の一層の推進を図る。 ・交換授業を取り入れ、職員の得意分野で授業実践をしていく。担任以外の職員が授業を受け持つことで生徒指導的機能も生かす。	・社会人になっても挨拶、返事、規律ある態度は欠かせない。児童への態度の育成は継続的に取り組んでほしい。 ・言葉遣いについては、SNSやマスメディアの影響が大きいと考える。指導が難しくなっているが継続してほしい。 ・ペア活動などを通して上級生と下級生の交流が良好である。引き続き大切にしてほしい。 ・学校正門近くの保護者の送迎車両のルールについては、今後、地域や各家庭に今以上の理解を頂き、危険を取り除くことで児童の安全を確保してほしい。
2	学校のスローガン「あいさつ、返事、きれいな学校」のもと、規律ある態度を育てる。	・委員会の取り組みなど自主的な活動となるよう児童を褒め、励まし、認めることで積極的なあいさつ、気持ちのよい返事、正しい言葉遣いができる児童を育てる。 ・継続して様々な場面で、きれいな教室や廊下が健やかな生活につながることを指導し、清掃活動に進んで取り組む児童を育てる。	
3	生徒指導の充実を図る。	・生徒指導会議、ケース会議の実施により、職員間の情報共有を図る。 ・担任と子どもが1対1で話す教育相談週間や、心の点検カードを継続し、児童理解を図る。 ・特別な支援を必要とする児童について全職員で共通理解し、本人の困り感に寄り添う体制を整える。 ・長期に欠席する、または登校しぶりのある児童については、担任だけで抱えることのないよう、全職員で対応していく。今後も各家庭やスクールカウンセラー、各関係機関との積極的な連携も図っていく。	